



北東側より見る。



サンルームより茶の間方向を見る。右手に玄関。



北西側より見る。



茶の間よりサンルーム方向を見る。

## コアハウス

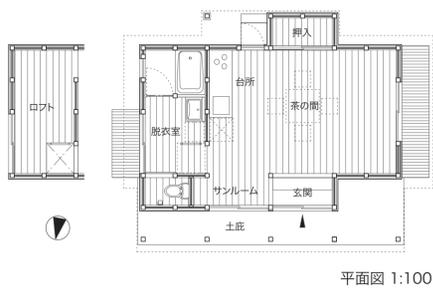
### 牡鹿半島のための地域再生最小限住宅 板倉の家

漁業を生業とする牡鹿半島の浜では、東日本大震災の津波によって大きな被害を受けた。住民との対話から、漁業従事者は漁船や漁具に費用がかかるため、当初住宅建設費用に限られる現状がわかってきた。人口流出に歯止めをかけるには廉価な住宅建設の可能性を早急に提示する必要があった。

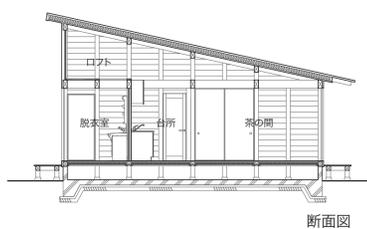
そこで、スマトラ沖地震津波の被害地域で提案された「コアハウス」を参考に、最初は小さく建てライフスタイルの変化に合わせて徐々に増築できる木造住宅を開発した。設計に当たっては、山と海に囲まれた牡鹿半島らしい漁村風景の再建を考慮し、地域の森林資源と農、漁業者の生業を結びつけることを試みた。漁村の生業を映した家並みが連続すれば、半島の美しい自然の景観とともに、重要な観光資源となるはずだ。そこで伝統的な漁師住宅の間取りを踏襲し、外から入れる浴室や魚を直接運べる勝手口、冬でも洗濯物を干せるサンルーム、縁側、土庇空間などを取り入れることに留意した。こうした要素により、通りからでも中の様子がうかがえるような場をデザインし、コミュニケーションの活発化をめざした。

構法には日本の伝統的な建設方法である、板倉構法を採用した。落とし板同士をあらかじめ工場で作ることによって、現場での作業時間を短縮できるので、震災復興に地域工務店の力を導入しやすくなる。また在来木造の1.6倍の木材を使用するので、地域木材資源の活用にも貢献し得る。建設過程や竣工状況を共有するための見学会と勉強会も開催した。これにより、地域に根ざした持続性のあるネットワークの構築を意図している。

2012年12月、モデルハウスが石巻市桃浦に竣工した。モデルハウスの実現のための募金や協賛を募る事を通して、東日本大震災の復興における問題を、産業界や海外の人々に発信する機会にもなった。現在は現地見学会、地域工務店との勉強会を継続し、高台移転完成後の建設に向け、住民と協議を進めている。



平面図 1:100



断面図

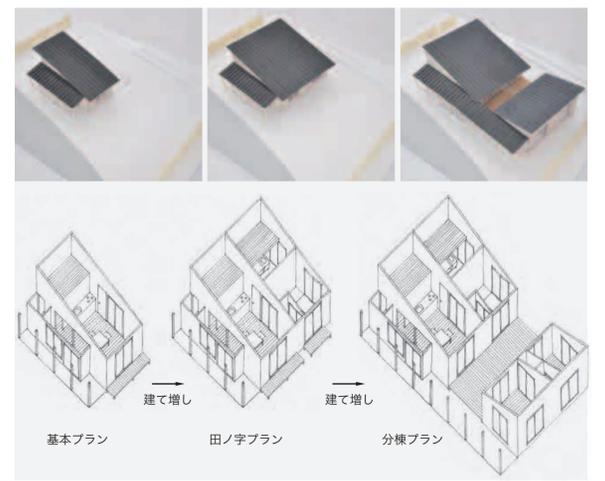


案内図 配置図 1:2000

設計：アーキエイド半島支援勉強会コアハウスワーキンググループ  
 施工：後藤建築  
 敷地面積：2,183.76 m<sup>2</sup>  
 建築面積：43.06 m<sup>2</sup>  
 延床面積：39.12 m<sup>2</sup>  
 階数：地上2階  
 構造：木造 板倉構法  
 工期：2012年11月～2012年12月



板倉構法



建て増しのプロセス



コアハウスが並ぶ高台の風景